

株主・投資家の皆様へ

Business Report

第152期 中間報告書

2021年4月1日から2021年9月30日まで

証券コード：4021



日産化学株式会社

未来のための、はじめてをつくる。



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における国内景気は、緊急事態宣言の再発令と延長等の影響で回復基調を示した個人消費が伸び悩み、本格的な回復には至りませんでした。中国景気の減速等を受け、出だしは堅調だった輸出需要が鈍化したことも、景気回復の遅れに影響しました。

当社グループの概況につきましては、化学品セグメントは、基礎化学品ではメラミン（合板用接着剤原料等）や高純度硫酸（半導体用洗浄剤）が、ファインケミカルでは「テピック」（粉体塗料硬化剤、封止材等）や環境化学品のシアマル酸（消毒・殺菌剤原料）が好調でした。機能性材料セグメントは、ディスプレイ材料では「サンエパー」（液晶表示用材料ポリイミド）が、半導体材料では半

導体用反射防止コーティング材（ARC[®]）や多層材料（OptiStack[®]）が増収となりました。農業化学品セグメントは、昨年第3四半期に買収した「ダイセン」（殺菌剤）が売上に貢献しましたが、「グレーシア」（殺虫剤）が減収となりました。医薬品セグメントは、「リバロ」（高コレステロール血症治療薬）原薬が国内では増収、海外では減収となり、「ファインテック」はジェネリック原薬が増収となりました。

この結果、当中間期は、「収益認識に関する会計基準」の適用により売上高は前年同期を下回ったものの、利益は前年同期を上回りました。中間配当金につきましては、1株当たり50円（前期中間配当金に比べ4円増配）とさせて頂きました。

今年度の業績予想につきましては、足元の需要予測をもとに見直し、本年5月の公表値について、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益すべてを上方修正いたしました。前年比では、売上高は減少するものの、増益となる見通しとなっています。

今年度は、長期経営計画および2022年度にスタートする中期経営計画を策定いたします。複雑化・多様化する社会課題の解決に当社が如何に貢献し、将来に亘り成長していくかを明示する新たな中長期的な戦略を構築する所存です。

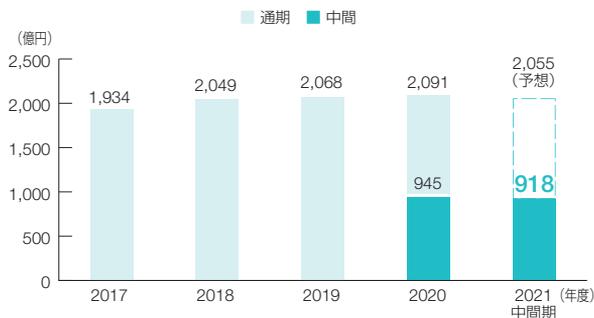
株主の皆様におかれましては、より一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役社長 **八木 晋介**

※ ARC[®]、OptiStack[®]はBrewer Science, Inc. の登録商標です。



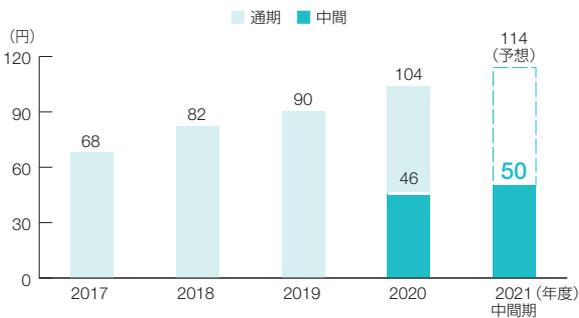
売上高



売上高

前年同期比
918億円 3%減 ↘

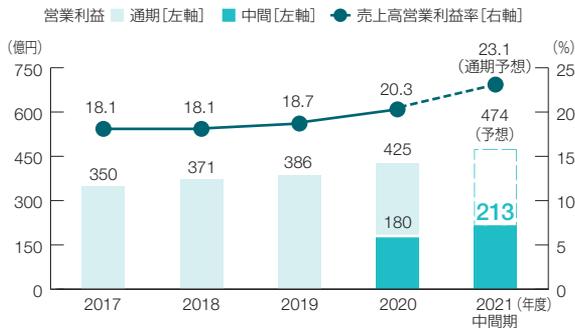
1株当たり配当金



1株当たり配当金

前年同期比
50円 4円増 ↗

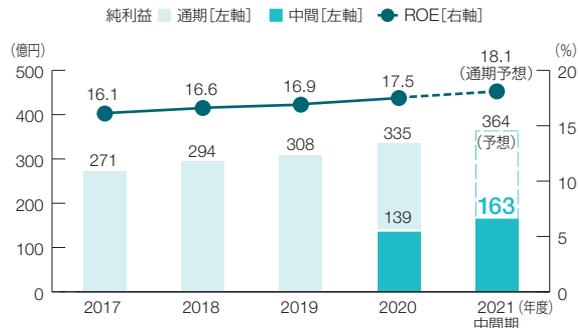
営業利益／売上高営業利益率



営業利益

前年同期比
213億円 19%増 ↗

親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益／ROE



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

前年同期比
163億円 17%増 ↗

(注) 当期から「収益認識に関する会計基準」を適用しております。この結果、売上高は109億円減少、営業利益は9億円減少しています。

化学品事業の構造改善 ーメラミン生産停止とシアヌル酸生産設備増強ー

当社の化学品事業は、アンモニアを起点とする誘導品（以下、アンモニア系製品）と硫酸系製品に大別されます。アンモニアは天然ガスを原料とし、その製造工程で発生するCO₂を活用して尿素を製造、さらに付加価値の高い製品へと川下展開しています。メラミンは、これまでアンモニア系製品の中核を担っていましたが、国際需給のアンバランス等による採算悪化と経年劣化に伴う設備維持更新費用の高騰などから、2022年6月を目途に生産停止することを決定しました。

アンモニア系製品の一つであるシアヌル酸は、生活用水および排水の消毒・殺菌剤用途で幅広く使用されています。当社は「ハイライト」の名称で製造・販売し、昨年度には世界的な需要増に対応して増強工事を完了させました。また、シアヌル酸を原料とする「テピック」は、粉体塗

料硬化剤のほか、LED封止材、ソルダーレジストインキなど電子材料分野での伸長が見込まれています。

当社は、メラミンの生産停止を機に、より収益性の高いアンモニア系製品および硫酸系製品に経営資源を配分することで、化学品事業の構造改善を推進してまいります。



取締役会の実効性評価について

当社は、2015年度から取締役会の実効性評価を毎年継続して実施しています。自己評価形式を基本としつつ、中立性・客観性を確保するため、3年ごとに外部機関を活用した第三者評価を取り入れています。

2020年度は第三者評価を実施し、質問票への回答、各役員へのインタビュー、意見交換会での議論・分析を行っ

た結果、当社の取締役会は全体として概ね適切に運営されており、実効性は確保されていることを確認しました。また、ジェンダーの視点からの取締役会構成員の多様性の課題を踏まえて、2021年6月には女性取締役を選任するなど、実効性向上へ向けた当社の取組みは着実に進展しています。

「ナノファイバージェル」がスギ薬局の「プリエクラ」シリーズに採用

当社の化粧品用高機能添加剤「ナノファイバージェル」が株式会社スギ薬局のオリジナルスキンケアブランド「プリエクラ」の新製品「クリームW」に採用されました。

「ナノファイバージェル」は、脂肪酸とアミノ酸からなる化合物パルミトイルジペプチド-18を特徴成分とする、当社が開発した化粧品用添加剤です。スギ薬局の「クリームW」は、この「ナノファイバージェル」を新配合成分として、その他の美容保湿成分も多数配合し、クリアな輝きに満ちた、弾むようなハリつや肌へ導く濃厚美容クリームです。

当社は引き続き、スキンケア分野をはじめとする商品への自社材料の採用実績を着実に積み上げてまいります。



「FTSE4Good Index Series」および「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に2年連続で選定

当社は、「FTSE4Good Index Series」および「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に2年連続で選定されました。これらのインデックスは、グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellによって作成されたもので、その評価はコーポレートガバナンス、健康と安全性、腐敗防止、気候変動といった分野について行われています。

これらのインデックスの構成銘柄として選定されることにより、ESG(環境・社会・ガバナンス)に関する様々な基準を満たしている企業であると市場では評価されることとなります。なお、「FTSE Blossom Japan Index」は、

年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がESG投資を行うために活用する指数の一つとして採用されています。

当社は、自社の企業理念「優れた技術と商品・サービスにより、環境との調和を図りながら、社会に貢献する」のもと、事業活動を通じてESGへの取組みをより一層充実強化することで、社会の持続的発展に貢献してまいります。



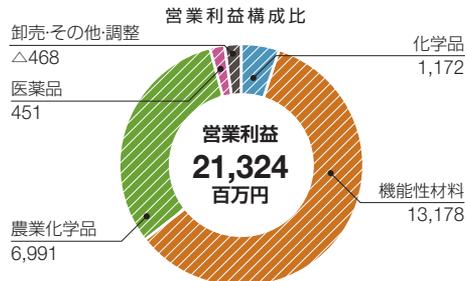
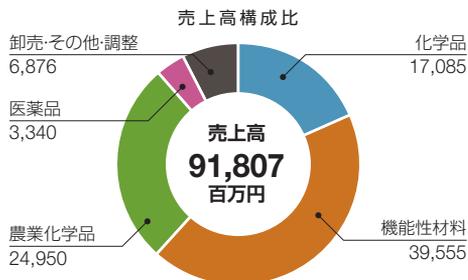
FTSE4Good



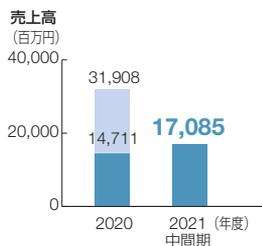
FTSE Blossom
Japan

セグメント別営業の概況

2021年度中間期



化学品セグメント 売上高構成比：18.6%

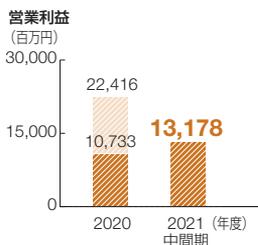
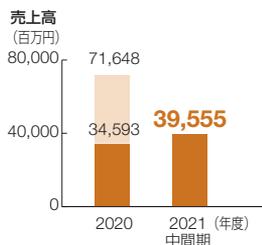


基礎化学品では、メラミン(合板用接着剤原料等)や高純度硫酸(半導体用洗浄剤)の販売が増加しました。ファインケミカルにおいても、「テピック」(粉体塗料硬化剤、封止材等)や環境化学品のシアヌル酸(消毒・殺菌剤原料)が好調でした。

この結果、当セグメントの売上高は170億85百万円(前年同期比23億73百万円増)、営業利益は11億72百万円(同13億11百万円増)となりました。業績予想比では、売上高は4億円、営業利益は2億円の上ぶれとなりました。



機能性材料セグメント 売上高構成比：43.1%



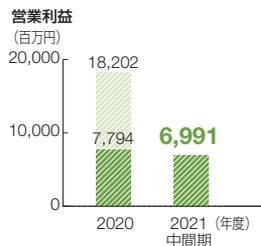
ディスプレイ材料では、「サンエバー」(液晶表示用材料ポリイミド)のノートPC、モニター向けが好調でした。半導体材料は、半導体用反射防止コーティング材(ARC®)および多層材料(OptiStack®)が顧客の稼働好調を受けて増収となりました。無機コロイドは、「スノーテックス」(電子材料用研磨剤、各種表面処理剤等)、オルガノシリカゾル・モノマーゾル(各種コート剤、樹脂添加剤)とも順調でした。オイル&ガス材料(シェールオイル・ガス採掘効率向上材)は増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は395億55百万円(前年同期比49億62百万円増)、営業利益は131億78百万円(同24億44百万円増)となりました。業績予想比では、売上高は24億円、営業利益は16億円の上ぶれとなりました。



※ARC®, OptiStack®はBrewer Science, Inc.の登録商標です。

農業化学品セグメント 売上高構成比：27.2%

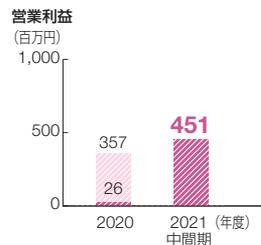


フルラナレル(動物用医薬品原薬)は、ロイヤリティ収入は好調でしたが、顧客在庫影響等により出荷が減少し、減収となりました。国内向け農業は、「ラウンドアップ」(非選択性茎葉処理除草剤)が堅調な売上となり、昨年第3四半期に買収した「ダイセン」(殺菌剤)が売上に貢献しました。一方、「アルテア」(水稻用除草剤)や「グレーシア」(殺虫剤)の出荷が減少しました。海外向け農業は、「グレーシア」の販売が減少しましたが、「タルガ」(除草剤)、「サンマイト」(殺虫・殺ダニ剤)や「クインテック」(殺菌剤)が好調に推移しました。また、「収益認識に関する会計基準」の適用により売上高、営業利益が減少しました。

この結果、当セグメントの売上高は249億50百万円(前年同期比7億95百万円減)、営業利益は69億91百万円(同8億3百万円減)となりました。業績予想比では、売上高は2億円、営業利益は12億円の上ぶれとなりました。



医薬品セグメント 売上高構成比：3.6%

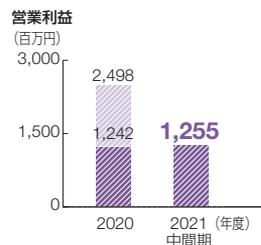
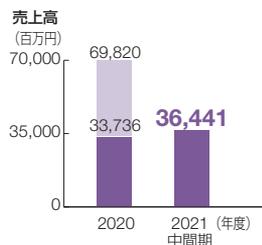


「リバロ」(高コレステロール血症治療薬)原薬は、国内では増収となりましたが、海外では後発品の増勢の影響を受け減収となりました。「ファインテック」は、ジェネリック原薬が増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は33億40百万円(前年同期比3億14百万円増)、営業利益は4億51百万円(同4億25百万円増)となりました。業績予想比では、売上高は4億円、営業利益は3億円の上ぶれとなりました。

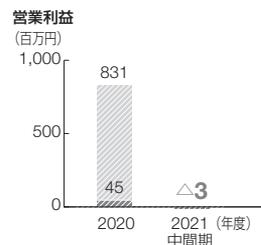
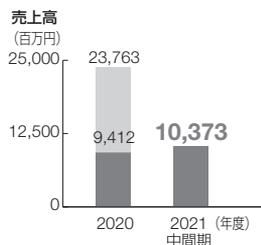


卸売セグメント 売上高構成比：39.7%



当セグメントの売上高は364億41百万円(前年同期比27億4百万円増)、営業利益は12億55百万円(同13百万円増)となりました。業績予想比では、売上高は29億円、営業利益は2億円の上ぶれとなりました。

その他のセグメント 売上高構成比：11.3%



当セグメントの売上高は103億73百万円(前年同期比9億60百万円増)、営業損失は3百万円(同49百万円減益)となりました。

(注)各セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高または振替高が含まれております。

連結財務の状況

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前期末 (2020年度)	当中間期末 (2021年度)
流動資産	159,588	142,315
現金及び預金	32,380	28,371
売上債権	73,937	55,787
たな卸資産	46,651	52,012
その他	6,619	6,143
固定資産	105,921	105,111
有形固定資産	51,837	50,969
無形固定資産	12,129	12,123
投資有価証券	35,894	32,086
その他	6,059	9,932
● 資産合計	265,509	247,426

科目	前期末 (2020年度)	当中間期末 (2021年度)
● 負債	64,947	50,022
買入負債	16,298	16,019
借入金	22,673	6,548
その他	25,975	27,454
● 純資産	200,562	197,404
株主資本	186,923	186,332
その他有価証券評価差額金	11,359	9,110
為替換算調整勘定	81	△256
退職給付に係る調整累計額	463	434
非支配株主持分	1,733	1,783
負債・純資産合計	265,509	247,426
● 自己資本比率	74.9%	79.1%

貸借対照表のポイント

総資産は、売上債権が減少したことなどにより、前期末比180億82百万円減の2,474億26百万円となりました。

負債は、借入金が減少したことなどから、前期末比149億24百万円減の500億22百万円となりました。

また、**純資産**は、前期末比31億58百万円減の1,974億4百万円となりました。この結果、**自己資本比率**は、前期末比4.2ポイント増加し79.1%となり、極めて堅固な財務基盤を維持しています。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期 (2020年度)	当中間期 (2021年度)
● 売上高	94,494	91,807
● 営業利益	17,980	21,324
営業外損益	192	938
● 経常利益	18,173	22,263
特別損益	1,089	23
● 親会社株主に帰属する四半期純利益	13,896	16,291
売上高営業利益率	19.0%	23.2%
四半期包括利益	16,436	13,772

損益計算書のポイント

売上高は、会計基準変更影響もあり前年同期を下回ったものの、各利益は前年同期を上回りました。また、**営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、本年5月公表の業績予想を上回りました。**

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期 (2020年度)	当中間期 (2021年度)
● 営業キャッシュ・フロー	33,629	33,765
税金等調整前四半期純利益	19,262	22,287
減価償却費	4,763	4,622
法人税等の支払	△ 6,570	△ 7,396
● 運転資金増減他	16,174	14,252
投資キャッシュ・フロー	△ 2,585	△ 6,091
設備投資	△ 4,025	△ 5,252
その他	1,439	△ 838
財務キャッシュ・フロー	△ 32,770	△ 31,560
配当	△ 6,990	△ 8,341
借入金増減	△ 18,778	△ 16,169
● 自己株式取得	△ 7,000	△ 7,001
その他	—	△ 48
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 14	△ 121
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,741	△ 4,008
現金及び現金同等物の四半期末残高	28,897	28,371

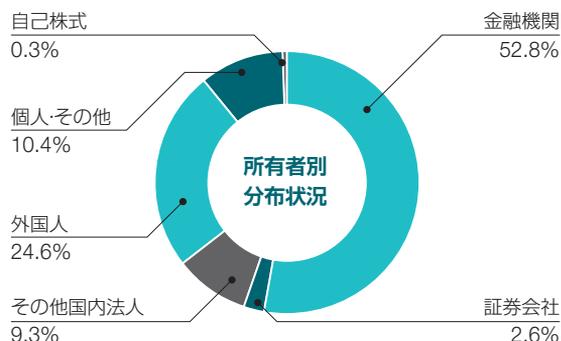
キャッシュ・フロー計算書のポイント

運転資金増減他は、売上債権の増加などにより、前年同期比19億21百万円減の142億52百万円の収入となりました。また、昨年同様、**株主還元のため自己株式の取得**を実施しました。

株式の状況 (2021年9月30日現在)

発行可能株式総数	360,000,000株
発行済株式の総数	143,000,000株*
株主数	10,764名

※自己株式448,029株を含みます。



大株主 (上位10名)

持株数(千株) 出資比率(%)

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	34,610	24.3
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	13,239	9.3
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	5,767	4.0
農林中央金庫	4,800	3.4
日産化学 取引先持株会	3,746	2.6
株式会社日本カストディ銀行(証券投資信託口)	2,711	1.9
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	1,956	1.4
明治安田生命保険相互会社	1,861	1.3
JP MORGAN CHASE BANK 385781	1,735	1.2
日産化学従業員持株会	1,678	1.2

(注)出資比率は発行済株式数から自己株式(448千株)を控除して算出しております。

役員 (2021年9月30日現在)

代表取締役 取締役会長	木下 小次郎
代表取締役 取締役社長	八木 晋介
取締役副社長	宮崎 純一
取締役 専務執行役員	本田 卓
取締役 常務執行役員	鈴木 周
取締役 常務執行役員	吉田 洋憲
取締役(*1)	大江 忠
取締役(*1)	大林 秀仁
取締役(*1)	片岡 一則
取締役(*1)	中川 深雪
常勤監査役(*2)	鈴木 規弘
常勤監査役(*2)	竹本 秀一
常勤監査役	鬼塚 博
監査役(*2)	片山 典之
専務執行役員	三宅 敏郎
常務執行役員	石川 元明
執行役員	浜本 悟
執行役員	生頼 一彦
執行役員	高子 康
執行役員	遠藤 秀幸
執行役員	野村 正文
執行役員	松岡 健
執行役員	佐藤 祐二
執行役員	畑 利幸
執行役員	大門 秀樹
執行役員	松村 光信
執行役員	青木 篤己
執行役員	川島 渡

(*1)社外取締役 (*2)社外監査役

会社概要

商号	日産化学株式会社 NISSAN CHEMICAL CORPORATION
本社	〒103-6119 東京都中央区日本橋二丁目5番1号 電話(03)4463-8111
創業	1887年4月
設立	1921年4月
資本金	18,942百万円
従業員数	2,734名(連結)
ウェブサイト	https://www.nissanchem.co.jp/ (IR情報はウェブサイトからもご覧になれます。)

事業所

営業拠点	札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡
工場	袖ヶ浦工場、埼玉工場、富山工場、名古屋工場、小野田工場
研究所	物質科学研究所(千葉)、材料科学研究所(千葉、富山)、生物科学研究所(埼玉)

グループ会社

国内	■ 日星産業株式会社 …… 化学品等の販売、保険代理業、不動産業
	■ 日産物流株式会社 …… 運送業
	■ 日産緑化株式会社 …… 造園、土木、緑化工事等の設計・施工
	■ 日産エンジニアリング株式会社 …… プラントエンジニアリング
	■ 日本肥糧株式会社 …… 肥料の製造・販売
	■ サンアグロ株式会社 …… 肥料の製造・販売
	■ NCアグロ函館株式会社 …… 農薬の製造
	■ クラリアント触媒株式会社 …… 工業用触媒の製造・販売
海外	■ Nissan Chemical America Corporation …… 無機コロイド製品の製造・販売
	■ Nissan Chemical Europe S.A.S. …… 農薬の販売
	■ NCK Co., Ltd. …… ディ스플레이材料・半導体材料の製造・販売
	■ Nissan Chemical Agro Korea Ltd. …… 農薬の販売
	■ 台湾日産化学股份有限公司 …… ディ스플레이材料・半導体材料の研究開発・販売支援
	■ 日産化学制品(上海)有限公司 …… 農薬の販売支援・普及サービス
	■ 日産化学材料科技(苏州)有限公司 …… 機能性材料の研究開発・販売支援・普及サービス
	■ Nissan Chemical Do Brasil …… 農薬の販売支援・普及サービス
	■ Nissan Agro Tech India Private Limited …… 農薬の販売支援・普及サービス
	■ Nissan Bharat Rasayan Private Limited …… 農薬原体の製造・輸出

株主メモ

事業年度

毎年4月1日～翌年3月31日

定時株主総会

毎年6月

基準日

定時株主総会・期末配当：毎年3月31日

中間配当：毎年9月30日

公告方法

電子公告 (<https://www.nissanchem.co.jp/>)

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

1単元の株式の数

100株

上場証券取引所

東京証券取引所 市場第一部

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先・電話お問合せ先

〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

0120-782-031 (フリーダイヤル)

住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座に記録されました株主様は、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金のお支払いについて

三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

IR情報はウェブサイトからもご覧いただけます。

<https://www.nissanchem.co.jp/>

日産化学

検索

